

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第16週（4月16日～4月22日）

★お知らせ

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第15週の5.23から第16週は4.70と横ばいです。県全域から報告があり、幡多で急減していますが、須崎で増加しています。

基幹定点からの感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）が2例報告されています。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス5例、ロタウイルス4例、細菌のカンピロバクター属菌や病原性大腸菌を原因とする胃腸炎5例や「数カ所の保育園で胃腸炎が流行っている」の報告があります。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも23例の報告があることから引き続き注意が必要です。

乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。ノロウイルス性胃腸炎は、通常1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあることから注意が必要です。

＜予防方法＞ 感染予防の基本は手洗いです

人への感染経路は、主に経口（食品、糞便）です。食品を除けば大半が手に付着したウイルスが口に入って感染します。感染防止策は「手洗い」が基本ですので帰宅時・調理前・食事前・トイレの後に石けんを使ってよく手を洗いましょう。また、感染した人の便や吐物には、大量のウイルスが含まれていますので直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認した上で使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）また、調理をする場合は、十分加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○インフルエンザに気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第15週の0.67から、第16週は0.50と減少しています。中央西、安芸で急減、高知市で減少していますが、須崎、幡多で急増しています。

病原体検出情報では第16週に高知市から搬入された検体から Influenza virus A H1pdm09 が1例検出されています。

インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型が22件（91.7%）、インフルエンザB型が2件（8.3%）となっており、複数回感染することも考えられますので、引き続き注意して下さい。

県内におけるインフルエンザの報告数はピーク時（第6週：定点当たり67.67）の約1/135に減少していますが、報告が続いているので、外出後の手洗い等の感染予防、感染拡大予防を心がけましょう。

症状がある方は咳エチケットを心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も感染予防には有効です。

厚生労働省 インフルエンザ（総合ページ）

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuleenza/index.html

○ヒトメタニューモウイルス（hMPV）感染症に気を付けて！

定点医療機関からのホット情報では、ヒトメタニューモウイルスによる感染症の報告が、第16週に15例報告されています。高知市7例、中央西3例、須崎3例、幡多2例の報告があり、年齢別にみると0歳1例、1歳3例、2歳5例、3歳3例、4歳1例、5歳2例となっています。

ヒトメタニューモウイルス感染症の流行時期は3～6月が中心で、1歳から2歳に多く、主な症状は、咳、発熱、鼻水です。重症化すると、喘鳴（ゼーゼー）、呼吸困難が見られます。

免疫を獲得しづらいため再感染を頻繁に起こすとされています。有効なワクチンはまだありませんので感染予防には、手洗い、うがい、マスクの着用、接触感染対策が大切です。

国内では、流行時期に高齢者施設などでhMPVを原因とする呼吸器感染症の集団発生が散見されていますので注意が必要です。

○咽頭結膜熱（プール熱）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第15週の0.17から第16週は0.17と横ばいです。高知市で急減していますが、須崎、幡多で急増し、須崎では注意報値を超えています。

咽頭結膜熱は、アデノウイルス感染による、発熱（38～39度）、のどの痛み、結膜炎を主症状とする小児に多い疾患です。例年5月中旬から下旬頃にかけて患者数が増加し始め、7月下旬から8月上旬をピークとする流行が見られる夏期の疾患で、プールを介して流行することが多いことから、「プール熱」とも呼ばれています。

感染経路は通常、飛まつ感染または手指を介した接触感染です。以下のことに気を付け、感染予防に努めましょう。

- 1) 流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- 2) 感染者との密接な接触は避けましょう。
- 3) タオル等は別のものを使いましょう。
- 4) プールからあがった時はシャワーをよく浴びましょう。

○百日咳に気を付けて！

第16週に百日咳の発生届けが須崎福祉保健所管内から9例報告されました。（先週、今週の週報のホット情報記載分）2018年にはいって高知県内の百日咳の届出は合計67例となっています。

百日咳は、感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫感染や接触感染により感染します。そのため、比較的軽い症状の患者や感染しても症状が軽いため百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することも考えられることから注意して下さい。

＜予防方法＞ 飛沫感染予防には、手洗い、咳エチケットです

- ・生まれた直後から百日咳にかかる可能性があります。咳が続いている人は、百日咳の可能性も考えて、赤ちゃんに注意して接しましょう。
- ・外出時にはマスクを着用し、人混みはなるべくさげ、帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- ・定期予防接種があります。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○沖縄で麻疹（はしか）患者が増加中ですのでご注意ください！

2018年3月23日、沖縄県内を旅行中の台湾からの旅行者が麻疹と診断されたと報告がありました。以降、この患者（初発例）と接触歴のあった二次感染例を中心に、沖縄県内では麻疹患者の発生が続いています。初発例は感染性のある期間中に広く沖縄県内を移動していたこと、二次感染例が沖縄県内の広い地域から報告されていることから、今後、沖縄県内及び県外での感染拡大が懸念されています。3月17日以降に沖縄県に滞在された方は、麻疹ウイルスに暴露を受けた可能性がありますのでご注意ください。また、4月12日愛知県から、3月28日から4月2日の期間に沖縄県に旅行歴のある患者の報告がありました。

県民の皆様へお願い

- 1、麻疹は予防接種により感染リスクが少なくなる疾患です。定期接種の対象者は接種対象期間中にかかりつけ医に相談し、接種を受けることが重要です。
- 2、麻疹を疑う症状（発熱、咳、鼻汁、その後発疹等）があった場合は、必ず受診前に医療機関に連絡し、麻疹を疑う旨を伝えた後、医療機関の指示に従い受診し、周囲に感染を拡げないようにご注意ください。

各医療機関の皆様へお願い

- 1、発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、麻疹の可能性も考慮し、渡航歴・旅行歴・麻疹含有ワクチンの接種歴・麻疹罹患歴を確認するとともに、感染拡大予防策の徹底をお願い致します。
- 2、麻疹（疑い例を含む）診断時には管轄の保健所又は福祉保健所までご連絡をお願い致します。

沖縄県衛生研究所：

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/measles.html>

国立感染症研究所

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

咳エチケット

- ★ 咳やくしゃみなどの呼吸器症状がある方は、必ずマスクを着用しましょう。
- ★ 咳やくしゃみをするときは、ハンカチやティッシュで口や鼻を押さえ、ウイルスの飛散を防ぎましょう。
- ★ 使用したティッシュなどは、ゴミ箱に捨てましょう。
- ★ 咳やくしゃみをした後は、石鹸を使用して、よく手を洗いましょう。

☆山や草むらでの野外活動の際にはダニに注意！

★日本紅斑熱や SFTS に注意しましょう

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かくなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を 腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋
※市販の虫除け剤（忌避剤）は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

SFTSはマダニからの感染が一般的ですが、最近の研究で、SFTSウイルスに感染し、発症している野生動物やイヌ・ネコなどの動物の血液からSFTSウイルスが検出されています。このことは、SFTSウイルスに感染している動物の血液などの体液に直接接触した場合、SFTSウイルスに感染することも否定できませんので、動物に触った後は必ず手洗いをするなどの感染予防に努めましょう。また、体調不良の動物と接触した後、発熱等の症状が出た時は、早めに医療機関を受診してください。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

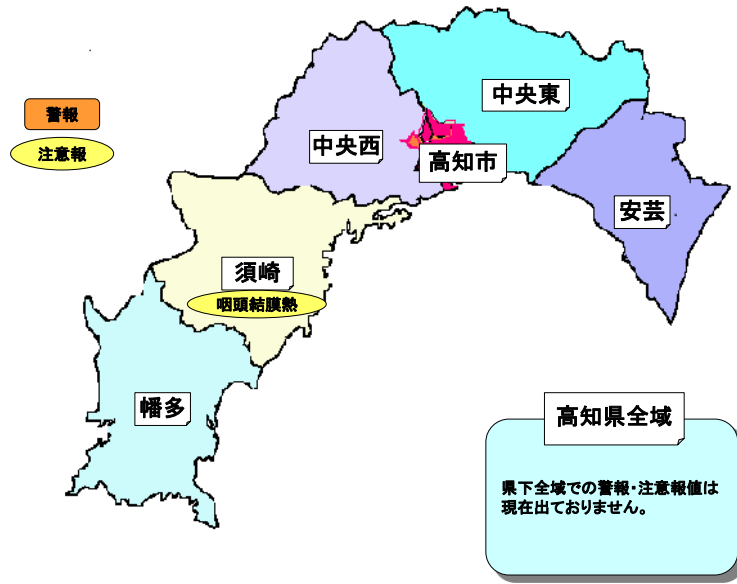
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	4.70	幡多で急減していますが、須崎で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.20	安芸、須崎で急減していますが、中央東で急増、高知市、中央西で増加しています。
インフルエンザ	↘	0.50	中央西、安芸で急減、県全域、高知市で減少していますが、須崎、幡多で増加しています。
突発性発疹	↗	0.37	安芸で急減していますが、幡多、高知市、中央西、中央東で急増、県全域で増加しています。
手足口病	→	0.23	中央西で急減していますが、高知市で急増しています。

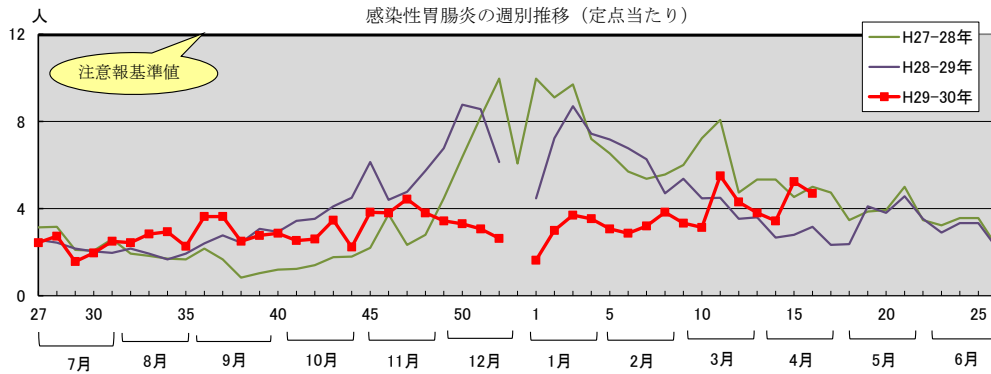
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

○感染性胃腸炎 第16週：4.70 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.70 (前週：5.23) と横ばいです。幡多 3.00 (前週：6.60) で急減していますが、須崎 2.00 (前週：1.50) で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H28-H29年とH29-H30のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
16	不明発疹症	発疹,	11	男	須崎	Human herpes virus 7
16	インフルエンザ	39℃,咳嗽,上気道炎,	3	女	高知市	Influenza virus A H1pdm09

前週以前

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
13	咽頭結膜熱	38℃,発疹,	1	女	中央東	Rhinovirus
14	手足口病?	37℃,発疹,	8	女	須崎	Human herpes virus 7
15	不明発疹症	39℃,発疹,	2	女	須崎	Human herpes virus 6

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	40	70歳代 男	安 芸
		1		70歳代 男	中央東
		1		70歳代 男	高知市
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	10	70歳代 男	中央東
	百日咳	1	67	0～4歳 男	須 崎
		1		0～4歳 男	
		1		5～9歳 男	
		1		5～9歳 男	
		1		5～9歳 女	
		1		5～9歳 女	
		1		10～14歳 女	
		1		10～14歳 女	
		1		10～14歳 女	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
安 芸	田野病院小児科	ノロ胃腸炎 1例 (1歳男)
中央東	早明浦病院小児科	百日咳 1例 (7歳男: Lamp 法陽性)
	おひさまこどもクリニック	急性耳下腺炎 4例 (4歳男、5歳女、6歳女、8歳女: 全例ムンプス IgM 陰性)
	高知大学医学部付属病院小児科	RSV 細気管支炎 1例 (5ヶ月男) ロタウイルス腸炎 1例 (4歳男)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 2例 (7ヶ月女、1歳女) ノロウイルス 1例 (1歳男) ヒトメタニューモウイルス 3例 (1歳男、2歳男、3歳女) アデノウイルス 1例 (3歳男)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザ A 型 2例 溶連菌感染症 4例 数カ所の保育園内で胃腸炎が流行っている
	けら小児科・アレルギー科	hMPV 肺炎 2例 (0歳、2歳) カンピロバクター腸炎 1例 (7歳) カンピロバクター+病原性大腸菌 O-1 腸炎 1例 (11歳)
	細木病院小児科	ノロ 1例 (1歳女) ロタ 1例 (3歳男) カンピロ 2例 (4歳男、12歳男)
	三愛病院小児科	hMPV 2例 (1歳男、3歳男)
中央西	日高クリニック	ヒトメタニューモウイルス感染症 3例 (3歳女、4歳男、5歳男)
	石黒小児科	帯状疱疹 1例 (9歳女) 水痘 1例 (3歳男: ワクチン 2回接種済み)
須 崎	もりはた小児科	ヒトメタニューモウイルス感染症 3例 (2歳) 百日咳 3例 (9歳、11歳) アデノウイルス感染症 2例 (9ヶ月、1歳) 感染性胃腸炎 4例 (ノロ 2例、ロタ 2例)
幡 多	さたけ小児科	ヘルペス歯肉口内炎 1例 (1歳男)
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 陽性 1例 (1歳女)
	こいけクリニック	ヒトメタニューモウイルス肺炎 1例 (5歳女)

★全国情報

第14号（4月2日～4月8日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核333例

3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症21例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎9例、A型肝炎12例、重症熱性血小板減少症候群2例、つつが虫病1例、日本紅斑熱2例、レジオネラ症20例

5類感染症：アメーバ赤痢8例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症24例
急性脳炎7例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症8例
後天性免疫不全症候群13例、ジアルジア症3例、侵襲性インフルエンザ菌感染症10例
侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症52例、水痘（入院例に限る）5例
梅毒71例、播種性クリプトコックス症4例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例
百日咳62例、風しん1例、麻しん16例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、E型肝炎1例、オウム病1例、デング熱1例、日本紅斑熱1例
ボツリヌス症1例、レジオネラ症1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症5例
急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例
水痘（入院例に限る）2例、梅毒57例、播種性クリプトコックス症1例、
バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、百日咳25例、麻しん9例

※第17週（4月23日から4月29日）の週報は大型連休により医療機関が休診となるため、第17週・第18週（4月30日から5月6日）の合併号として、5月9日(水)に発行します。

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第16週 平成30年4月16日(月)～平成30年4月22日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第16週							計	前週	全国(15週)	高知県(16週末累計)		全国(15週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/4/22				H30/1/1～H30/4/15			
インフルエンザ	インフルエンザ			5	12	2	4	1	24 (0.50)	32 (0.67)	8,211 (1.66)	20,822 (433.79)	1,732,505 (350.35)			
小児科	咽頭結核熱				1		2	2	5 (0.17)	5 (0.17)	741 (0.23)	64 (2.13)	13,464 (4.26)			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	2	23	3	2	4	36 (1.20)	33 (1.10)	6,924 (2.19)	630 (21.00)	109,012 (34.52)				
	感染性胃腸炎	12	46	55	9	4	15	141 (4.70)	157 (5.23)	15,803 (5.00)	1,748 (58.27)	226,898 (71.85)				
	水痘	1	1		1			3 (0.10)	1 (0.03)	890 (0.28)	64 (2.13)	13,416 (4.25)				
	手足口病			2				5	7 (0.23)	8 (0.27)	734 (0.23)	147 (4.90)	7,719 (2.44)			
	伝染性紅斑				1				1 (0.03)	1 (0.03)	282 (0.09)	16 (0.53)	3,314 (1.05)			
	突発性発疹		2	4	1	2	2	11 (0.37)	7 (0.23)	1,548 (0.49)	117 (3.90)	16,328 (5.17)				
	ヘルパンギーナ								(0.00)	(0.00)	83 (0.03)	4 (0.13)	758 (0.24)			
	流行性耳下腺炎		1	1					2 (0.07)	1 (0.03)	478 (0.15)	13 (0.43)	6,870 (2.18)			
	RSウイルス感染症	1	1	2					4 (0.13)	10 (0.33)	1,279 (0.40)	167 (5.57)	19,374 (6.13)			
眼科	急性出血性結膜炎								(0.00)	(0.00)	21 (0.03)	(0.00)	159 (0.23)			
	流行性角結膜炎			2					2 (0.67)	(0.00)	500 (0.72)	9 (3.00)	6,520 (9.34)			
基幹	細菌性髄膜炎								()	(0.00)	8 (0.02)	2 (0.25)	127 (0.27)			
	無菌性髄膜炎								()	(0.00)	12 (0.03)	1 (0.13)	159 (0.33)			
	マイコプラズマ肺炎								()	2 (0.25)	53 (0.11)	24 (3.00)	1,188 (2.48)			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1					1 (0.13)	(0.00)	2 (0.00)	10 (1.25)	59 (0.12)			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		1	1					2 (0.25)	4 (0.50)	197 (0.41)	17 (2.13)	1,703 (3.56)			
計(小児科定点当たり人数)	16 (8.00)	59 (8.02)	105 (8.83)	16 (5.06)	14 (6.00)	29 (5.73)	239 (7.50)			37,766	23,855 (532.78)	2,159,573				
前週(小児科定点当たり人数)	25 (12.25)	52 (7.16)	101 (8.46)	19 (5.67)	14 (6.50)	50 (9.20)		261 (8.09)								

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第16週							計	前週	全国(15週)	高知県(16週末累計)		全国(15週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/4/22				H30/1/1～H30/4/15			
インフルエンザ	インフルエンザ			0.45	0.75	0.40	1.00	0.13	0.50	0.67	1.66	433.79	350.35			
小児科	咽頭結核熱					0.09		1.00	0.40	0.17	0.17	0.23	4.26			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	0.29	2.09	1.00	1.00	0.80	1.20	1.10	2.19	21.00	34.52				
	感染性胃腸炎	6.00	6.57	5.00	3.00	2.00	3.00	4.70	5.23	5.00	58.27	71.85				
	水痘	0.50	0.14		0.33			0.10	0.03	0.28	2.13	4.25				
	手足口病			0.18				1.00	0.23	0.27	0.23	4.90	2.44			
	伝染性紅斑				0.09				0.03	0.03	0.09	0.53	1.05			
	突発性発疹		0.29	0.36	0.33	1.00	0.40	0.37	0.23	0.49	3.90	5.17				
	ヘルパンギーナ							0.00	0.00	0.03	0.13	0.24				
	流行性耳下腺炎		0.14	0.09				0.07	0.03	0.15	0.43	2.18				
	RSウイルス感染症	0.50	0.14	0.18				0.13	0.33	0.40	5.57	6.13				
眼科	急性出血性結膜炎							0.00	0.00	0.03	0.00	0.23				
	流行性角結膜炎			2.00				0.67	0.00	0.72	3.00	9.34				
基幹	細菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.02	0.25	0.27				
	無菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.03	0.13	0.33				
	マイコプラズマ肺炎							0.00	0.25	0.11	3.00	2.48				
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13	0.00		1.25	0.12				
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		1.00	0.20				0.25	0.50	0.41	2.13	3.56				
計(小児科定点当たり人数)	8.00	8.02	8.83	5.06	6.00	5.73	7.50				532.78					
前週(小児科定点当たり人数)	12.25	7.16	8.46	5.67	6.50	9.20		8.09								

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2018年4月23日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。